

平成エンタープライズ



代表取締役

田倉 貴弥氏

バス旅客運送事業を
メインに据える平成エ
ンタープライズ

(埼玉県富士見市)。同社では2010年にラウンジ事業、2014年からは「ホステルわさび」などのゲストハウス事業を開始し、訪日観光客向けの取り組みを開始したことで知られる。そして6月1日、同社の新規事業として鍵の受け渡し・チェックインに限定した民泊代行事業のスタートを発表した。

今回のサービスタ
ートの狙いについて代
表取締役の田倉貴弥氏
は「ひとつは既存事業
で観光バスやラウンジ

メインの旅客運送業を生かし

訪日観光客に「体験」を提供へ

を有している当社が代
行事業に参入すること
で、ホスト・ゲストに
対しこれまで以上の価
値を提供することで可
能な限り「と話し、
次のように続けた。

「当社が代行業を行
うことで訪日観光客受
け入れの際の課題をク
リアにしていくことが
できます。たと
えば、ラウンジ
は空港から都市
へ、そして都市
から観光地へ向
かうターミナル
の役割も果たし
ています。こ
こでチェックイ
ンや鍵の受け渡
しを行うこと
で、無駄な時間
を省いていくこ
とが可能です。
また今年4月か
らは当日一時荷
物預かりのサー
ビス『手ぶら観
光サービス』を
開始していま
す。これを利用す
るとで宿泊施設な
どを巡ることな
く、ノンストップ
で観光地へ行く
ことが可能です」
そして、今回の
新規参入の狙い
のもうひとつは
「民泊の自社運
営」に向けた試
金石であるとい
うことだ。

先般、宿泊事業法が
成立し、今後1年以内
には施行され、ポ
ールは条例を制定す
る自治体側に投げら
れる。

「今後、自社運営を
進める上で法律制定後
の民泊業界がどのよう
な変遷を辿るか、見極
める必要がありま
す。自社での民泊運
営に向けて、現在テ
スト運用も始めてい
ますが、今後本格化
に向けては民泊物件
の買取も考えていま
す」
(田倉氏)

民泊は法律成立を受
けて、大手事業者が
数を多く手を挙げだ
している。競争激化
は必至だが、それ
でも田倉氏は「ゲ
ストハウス事業を
開始していきま
す。これを利用す
るとで宿泊施設な
どを巡ることな
く、ノンストップ
で観光地へ行く
ことが可能です」
そして、今回の
新規参入の狙い
のもうひとつは
「民泊の自社運
営」に向けた試
金石であるとい
うことだ。